

## 2023年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年9月2日

上場会社名 株式会社 アインホールディングス 上場取引所 東 札  
 コード番号 9627 URL <https://www.ainj.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大谷 喜一  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 水島 利英 TEL 011-814-1000  
 四半期報告書提出予定日 2022年9月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有 (四半期決算補足資料は、適宜、当社ホームページに掲載いたします。)  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年4月期第1四半期の連結業績 (2022年5月1日～2022年7月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第1四半期	81,470	8.6	2,753	5.4	3,089	7.9	1,704	30.2
2022年4月期第1四半期	75,011	5.0	2,611	124.3	2,864	73.1	1,309	54.6

(注) 包括利益 2023年4月期第1四半期 1,695百万円 (33.0%) 2022年4月期第1四半期 1,274百万円 (49.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第1四半期	48.53	—
2022年4月期第1四半期	37.10	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第1四半期	228,394	118,773	52.0
2022年4月期	212,461	119,010	56.0

(参考) 自己資本 2023年4月期第1四半期 118,687百万円 2022年4月期 118,923百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年4月期	—	0.00	—	55.00	55.00
2023年4月期	—	—	—	—	—
2023年4月期 (予想)	—	0.00	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年4月期の連結業績予想 (2022年5月1日～2023年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	172,833	13.0	8,485	46.9	8,732	42.5	4,497	34.7	128.02
通期	363,000	14.8	20,000	32.1	20,500	27.8	11,000	55.1	313.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付書類8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年4月期1Q	35,428,212株	2022年4月期	35,428,212株
② 期末自己株式数	2023年4月期1Q	300,911株	2022年4月期	300,911株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年4月期1Q	35,127,301株	2022年4月期1Q	35,293,974株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状況等の変化により、実際の業績は予想数値と異なる結果となる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2022年5月1日～2022年7月31日)におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続く中、万全な感染対策により、個人消費、景気は緩やかな持ち直しの傾向が見られています。しかしながら、金融資本市場の変動や原材料価格の上昇、供給面での制約等のリスクを持ちあわせており、未だ先行きは不透明なものとなっております。

このような経済情勢の中、当社グループはマテリアリティでもある「地域医療への貢献」「美しさと健やかさの提供」を使命とし、新型コロナウイルス感染症への感染対策を徹底し、医療・小売サービスの提供に努めてまいりました。また、地域医療の一翼を担うべく、薬局における抗原検査・PCR検査の実施、抗原検査キットの取り扱い、発熱患者様への電話服薬指導及び医薬品の迅速なお届け等、薬局・薬剤師の責務を果たすべく、積極的に対応してまいりました。

当社は2022年5月23日、全国に調剤薬局約100店舗を展開する株式会社ファーマシーホールディングスの全株式を取得し、子会社化いたしました。同社を当社グループに迎えたことにより、1,200店舗を超えた薬局において、相互の事業ノウハウを融合することで、更なる患者サービスの充実を実現し、全国における地域医療のインフラとして企業価値を高めてまいります。

当社グループは、深刻化する気候変動問題について、持続可能な社会実現のために重要な課題のひとつとして認識し、マテリアリティ「環境保護・負荷低減」に取り組んでおります。2022年4月の「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)<sup>\*</sup>」の最終報告書(TCFD提言)への賛同、TCFDコンソーシアムへの参加に加え、2022年7月にはTCFD提言が推奨する4つの開示項目について整理・設定し、コーポレートサイトにおいて開示いたしました。今後も、持続可能な社会の実現に向けて、お客様はじめ多様なステークホルダーの皆様のことを考え、自ら変化し行動することで、企業の持続的な成長と、社会・環境・経済価値を創出し、サステナビリティ経営を実現してまいります。

当第1四半期連結累計期間における経営成績は、売上高が814億7千万円(前年同期比8.6%増)、営業利益は27億5千3百万円(同5.4%増)、経常利益は30億8千9百万円(同7.9%増)となり、また、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億4百万円(同30.2%増)となりました。

<sup>\*</sup>TCFD:「気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の略。G20財務大臣及び中央銀行総裁の意向を受け、金融安定理事会(FSB)が設置。2017年6月に最終報告書「TCFD提言」を公表  
セグメントの経営成績は次のとおりであります。

#### (ファーマシー事業)

当社グループの薬局では、地域医療の一翼を担うべく、強い使命感を持ち、新型コロナウイルス感染症に対して全力で取り組んでまいりました。全国約800の薬局において抗原・PCR検査無料実施へ対応しているほか、ほぼ全店において抗原検査キットを取り扱う等、薬局の果たすべき役割に真摯に取り組んでおります。

また、地域全体で求められる薬局の在り方として、専門医療機関連携薬局や地域連携薬局、地域の薬局等との相互連携が重要と考えております。大学病院等の地域の基幹病院から地域のかかりつけ医に戻る際、患者様にとって有益で質の高い薬局サービスの提供につなげられるよう、必要な情報連携の検討や研修会の共同開催等、薬局間の連携強化についての取り組みを推進しております。今後も、患者様が継続してよりよい薬局サービスをうけることが可能な地域包括ケアの実現と、薬物治療の質の向上に向けて、積極的に取り組んでまいります。

営業開発においては、2022年5月に株式会社ファーマシーホールディングスの約100店舗をグループに迎えました。引き続き、大型薬局の積極的な出店と投資回収を重視したM&Aを出店戦略とし、さらなる事業規模の拡大を行うとともに、店舗運営の効率化を推進してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高は724億8千2百万円(前年同期比8.5%増)、セグメント利益は47億3千1百万円(同3.0%減)となりました。

同期間の出店状況は、M&Aを含め、グループ全体で合計117店舗を出店し、5店舗の閉店、1店舗の事業譲渡により、当社グループにおける薬局総数は1,210店舗となりました。

#### (リテール事業)

コスメ&ドラッグストア事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい市場環境が続いておりますが、当社グループでは、引き続き商品力の強化や魅力的な売り場づくり、確実に収益が見込める立地への出店及びコスト適正化を進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、60億8千6百万円(前年同期比20.2%増)、セグメント利益は1億6千4百万円(前年同期は5億3百万円の損失)となりました。

同期間の出店状況は、2店舗を出店し、1店舗を閉店したことで、コスメ&ドラッグストア総数は79店舗となりました。

(その他の事業)

その他の事業においては、売上高は29億2千万円(前年同期比7.1%減)、セグメント利益は4百万円(同63.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末より159億3千2百万円増の2,283億9千4百万円となりました。主な要因は、のれん及びM&Aを含む新規出店により商品等が増加したことによるものであります。

負債の残高は、161億6千9百万円増の1,096億2千万円となりました。主な要因は、買掛金や借入金が増加したことによるものであります。

短期及び長期借入金の残高は、69億2千6百万円増となる153億8千5百万円となりました。主な要因は、当第1四半期連結会計期間において、新たに連結の範囲に含めた子会社によるものであります。

純資産の残高は、2億3千6百万円減の1,187億7千3百万円となり、自己資本比率は4.0ポイント減となる52.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月3日発表の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	59,729	46,863
受取手形及び売掛金	10,110	12,697
商品	14,568	19,287
貯蔵品	222	216
短期貸付金	306	220
未収入金	11,832	11,961
その他	3,995	4,916
流動資産合計	100,765	96,163
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,512	19,505
土地	8,581	10,637
その他(純額)	4,542	5,612
有形固定資産合計	30,636	35,755
無形固定資産		
のれん	36,352	49,344
その他	4,866	5,134
無形固定資産合計	41,219	54,479
投資その他の資産		
投資有価証券	2,503	2,649
繰延税金資産	5,319	5,957
敷金及び保証金	22,785	23,234
その他	10,526	11,448
貸倒引当金	△1,294	△1,293
投資その他の資産合計	39,840	41,996
固定資産合計	111,696	132,231
資産合計	212,461	228,394

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,756	59,462
短期借入金	2,643	4,167
未払法人税等	4,391	1,361
預り金	15,415	17,343
賞与引当金	2,713	2,362
役員賞与引当金	18	12
契約負債	544	584
その他	5,321	6,109
流動負債合計	81,805	91,402
固定負債		
長期借入金	5,815	11,218
退職給付に係る負債	3,578	4,260
その他	2,252	2,738
固定負債合計	11,645	18,217
負債合計	93,450	109,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,894	21,894
資本剰余金	20,500	20,500
利益剰余金	78,661	78,433
自己株式	△2,018	△2,018
株主資本合計	119,038	118,811
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△39	△53
退職給付に係る調整累計額	△75	△69
その他の包括利益累計額合計	△114	△123
非支配株主持分	86	86
純資産合計	119,010	118,773
負債純資産合計	212,461	228,394

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)
売上高	75,011	81,470
売上原価	63,950	69,827
売上総利益	11,060	11,643
販売費及び一般管理費	8,448	8,890
営業利益	2,611	2,753
営業外収益		
受取利息	10	12
受取配当金	16	31
受取手数料	2	5
不動産賃貸料	231	49
業務受託料	43	50
補助金収入	13	73
持分法による投資利益	2	—
その他	107	171
営業外収益合計	426	394
営業外費用		
支払利息	11	14
債権売却損	19	23
不動産賃貸費用	101	4
その他	41	16
営業外費用合計	174	58
経常利益	2,864	3,089
特別利益		
固定資産売却益	26	1
事業譲渡益	0	4
特別利益合計	27	5
特別損失		
固定資産除売却損	30	65
減損損失	6	20
賃貸借契約解約損	118	—
その他	31	11
特別損失合計	186	98
税金等調整前四半期純利益	2,704	2,996
法人税等	1,400	1,292
四半期純利益	1,304	1,703
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,309	1,704



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2021年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	1,304	1,703
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△40	△14
退職給付に係る調整額	10	6
その他の包括利益合計	△30	△8
四半期包括利益	1,274	1,695
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,279	1,695
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下、「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年5月1日至2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー事業	リテール事業	その他の事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	66,828	5,063	3,119	75,011	—	75,011
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	23	23	△23	—
計	66,828	5,063	3,143	75,034	△23	75,011
セグメント利益又は損失(△)	4,879	△503	13	4,389	△1,524	2,864

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,524百万円には、全社費用が1,792百万円、報告セグメントに配賦不能の損益(△は益)が△347百万円、セグメント間取引消去が79百万円含まれております。

なお、全社費用は、報告セグメント外の管理部門及びシステム物流部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年5月1日至2022年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー事業	リテール事業	その他の事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	72,482	6,086	2,901	81,470	—	81,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	18	18	△18	—
計	72,482	6,086	2,920	81,489	△18	81,470
セグメント利益又は損失(△)	4,731	164	4	4,900	△1,811	3,089

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,811百万円には、全社費用が2,159百万円、報告セグメントに配賦不能の損益(△は益)が△341百万円、セグメント間取引消去が△7百万円含まれております。

なお、全社費用は、報告セグメント外の管理部門及びシステム物流部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「ファーマシー事業」セグメントにおいて、当社が株式会社ファーマシーホールディングスの全株式を取得したことに伴い当第1四半期連結会計期間より、同社及びその子会社2社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において12,921百万円であります。

なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。